

第4回万博ロードマップ検討会における主な意見

- ・ 防災や減災に関する視点を取り入れてほしい。震災、天災は忘れた頃にやってきてしまうということがあるので、防災の機運醸成も1つのコンテンツに成りうるのではないか。
- ・ 障害がある方を排除しないようなユニバーサルな視点で足りない部分を補う必要がある。万博は一生に何度も経験できるものではないため、障害を持つ子ども達にも参加してほしいと考えている。万博会場への参加については、支援学校に通う子は府立の学校になるため、修学旅行の行き先になるとしても受け入れ体制の面が課題である。
- ・ 国際的な交流、受入対応について、単なる多言語対応に留まらず、SNSや内なる国際化、ポケトークなど技術の活用を含めた国際化の視点を盛り込む。発災時における観光客の避難では、英語などの多言語対応が必要ですし、ヘルスツーリズム等に関しても世界を意識した国際博覧会が成すべき大きなところなので、外とつながる国際化はもちろん、内なる国際化で地域が万博を契機として人々を出迎えるエリアになるような姿を描くことも必要だと思う。
- ・ 情報発信の観点が抜けている。この京丹後市の動きに関して、より多くの方々に理解してもらうための発信が必要で、地域住民や他市町も含めて知ってもらえる機会を提供できれば良い。
- ・ また、ホームページの作成、記者会見をして終わりではなく、SNSによるリアルタイムでの機運醸成やハッシュタグの活用、ステッカーを作成し誰もが気軽に配ることができる仕組みを作るなど、自分も参加することで自ら発信したいと思わせる仕掛けができれば良い。この京丹後市の動きに関して、より多くの方々に理解してもらうための発信が必要で、地域住民や他市町も含めて知っていただく機会を提供できれば良い
- ・ 京丹後市ではなく丹後となっはいるものの、近隣市町や府県を越えた他市町との連携について、もう少し広域化の視点を入れるべき。
- ・ K P I を観光入込客の数値目標だけでなく、市民の満足度が高まったり、まちへの誇りが高まるように他の指標を増やす工夫が必要。
- ・ 他計画（既存計画や未来計画）との整合性を図りながら、他市町や他部署の関係者との連携も含めた横串を刺すような形とする。